

大型店撤退後の旧駅前再開発ビルにコミュニティ施設を再生：文化ひろば「く・る・る」と親子ひろば「とんとん」

NPO 法人 たきかわホール

機関名	NPO法人たきかわホール			
所在地	北海道滝川市栄町3丁目9番2号B1			
電話番号	0125-23-0966			
地域概要	(1)管内人口	46千人	(2)管内商店街数	5商店街
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数	1	(2)会員数	45商店
	(3)空店舗率	12.1%	(4)大型店空き店舗数	1
	駅前商店街振興組合			
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成15年度 コミュニティ施設活用事業（複合施設）

- ・親子交流施設
- ・高齢者等交流施設
- ・商店街利用者サービス施設

総事業費 26,774千円

【事業実施内容】

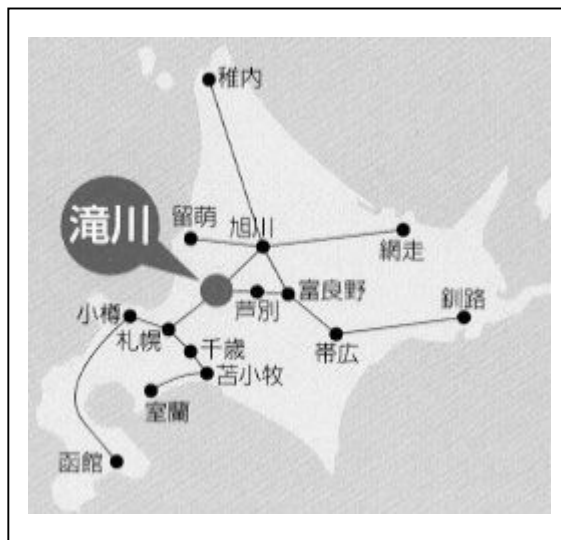
1. 背景

滝川市は、北海道のほぼ中央部、石狩川と空知川に挟まれた平野部に広がり、土地はおおむね平坦で、ゆるやかな丘陵地帯となっている。滝川市の中心市街地は、人口の流出や商業力の衰退、公共機能の低下など空洞化が進んでいる。

とりわけ、平成15年9月にJR滝川駅前の旧駅前再開発ビル(地上4階地下1階、約24,000㎡)のテナントであった「西友滝川店」が撤退したため、中心市街地は危機的となった。

そこで、同ビルの地下1階(約730㎡)をコミュニティ施設として整備し、同ビル3階の「たきかわホール」を運営するNPO

法人たきかわホールと地元滝川駅前商店街振興組合が、生活弱者である高齢者や就学以前の母子を対象とするサービス事業と、「たきかわホール」や駅近在の「太郎吉蔵」(歴史的建造物である石蔵を改修利用するアートスペース)と連携する地域の歴史と文化を



滝川市の位置 (滝川市のHPより)

NPO法人たきかわホール

再生する拠点づくりを担う事業を実施した。滝川駅前再開発ビルは公共交通のターミナル機能が結束する地点に立地しており、高齢者や母子の方の利用に最適であり、不特定多数の方を呼び込むことが可能であった。NPO 法人たきかわホールと連携して商店街振興組合が単なる販促ではない文化交流事業を手がけることにより、賑わいを取り戻し、新たなる商店街づくりへの展開を図った。

実施主体は、NPO 法人たきかわホールで、運営委員会を NPO 法人たきかわホールと駅前商店街振興組合、滝川市文化連盟、滝川市文化団体連絡協議会、(株)アニメ滝川(TMO)、滝川市で組織した。

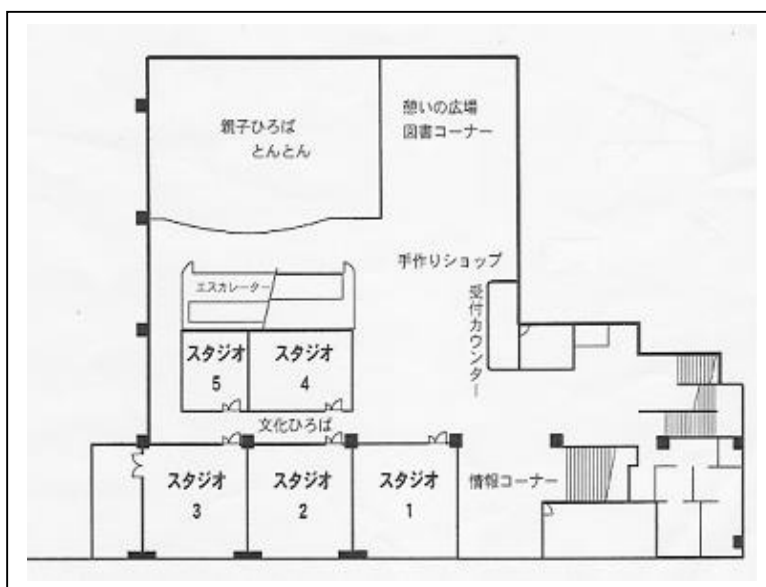
2. 事業内容

施設内容としては、貸館・練習スタジオ・ギャラリーに手づくりショップや情報コーナーを付加したスペースと、就学前の母子を対象とする親子広場施設と高齢者が気軽に滞留する施設を併せたスペースを設けることとした。

(1) 親子ひろば「とんとん」(約 230 m²)

親子で楽しく遊んだり

り、お母さんのリフレッシュ、また子育てに関する悩み相談など、就学前の親子の交流の場として利用。



各スペースの配置



親子ひろば「とんとん」



「とんとん」でのイベントの様子

(2) 文化ひろば「く・る・る」(約 215 m²)

5室のスタジオは、講習会、練習場、展示会、会議、等様々な目的で利用。



「く・る・る」でのイベントの様子
 左：『手づくりフェスタ』 右：『陶芸まつり』

(3) 高齢者・憩いの広場 (約 100 m²)

広々としたスペースにテーブルを設置し自由にいつでも休憩等に利用。また、館内閲覧用の図書コーナーも設置。



憩いの広場

(4) 手作りショップ (約 60 m²)

市内近郊で手づくりをされている方の作品を展示販売。陶芸、織物、木工品、布小物、トールペイント、クレイクラフト、子供服、ドライフラワー等様々なジャンルの手づくり品を満載。

(5) 情報コーナー (約 40 m²)

街中情報、公共情報等の掲載の情報掲示板。地域文化団体の催し物のプレイガイドとしての機能 (チケット販売)。

(6) ギャラリー (約 85 m²)

(7) 事業実績

ゾーン名	利用実績
親子ひろば「とんとん」	<ul style="list-style-type: none"> ・H16 親子会員登録数 128 組 こども 約 390 人 おとな 約 380 人 *月平均利用者 約 770 人 (12-3 月)
文化ひろば「く・る・る」	<ul style="list-style-type: none"> 友の会会員登録 41 組 利用組数 約 74 組 利用人数 約 830 人 *月平均利用者 830 人 (12-3 月)
高齢者・憩いの広場 ギャラリー 手作りショップ 情報コーナー (一体的に利用)	<ul style="list-style-type: none"> ・月例、特別イベントによる月平均集客数 1,500 人 ・手作りショップの月平均売上金額 (12-3 月) 約 250,000 円 ・スタジオ利用以外の来場者は 1 日当り 100 人強 月平均来場者数 3,000 人 *月平均利用者 4,500 人
利用者計	*月平均利用者 6,100 人

【 効 果 】

1. 来訪者・イベント等参加者

「とんとん」の利用については、当初午前 50 人午後 50 人程度を想定したが、1 日 40 人程度に留まっている。担当保育士も 1 人体制に近く、現状ではキャパシティに達している。「く・る・る」については、滝川市文化連盟の所属文化団体による週定期利用があるととともに、ダンスやキルトなどの講師による講座も開かれており、今後とも更なる利用者増が見込まれる状況にある。また、当施設の月例、特別イベントによる集客は順調であり、施設の PR と利用者増に貢献している。手作りショップの売り上げも順調に伸びており、確実に駅前再開発ビルへの来訪者を確保した。

2. 商業集積効果

コミュニティ施設オープンに併せて、空き家であった 1 階にテナントを呼び込んだ駅前再開発ビルは、その後も順調にテナントの出店が見られる状況にある。また、駅前再開発にビルの地下空スペースを当施設で活用するようになったことにより、同地下に市場がオープンし、また、他の施設も続いてオープンした。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

<「とんとん」(つどいの広場事業)>

1. 人的体制

最大の問題は人件費であり、実施を計画している事業の準備などのために、担当スタッフがサービス残業をしながら対応している。

2. スタッフの資質の向上

当事業が多くの人に認知され、まちに必要な場となるためには、企画する事業内容が重要になる。そのためにはスタッフの資質向上のための研修時間等も必要である。

<「く・る・る」(いこいの広場事業)>

1. PR

限られた予算の中で、効果的に PR していく必要がある。また、リピーター確保のためイベント・企画内容を充実させ、マンネリにならないよう常に新しいことを取り入れていくこと。

2. 商店街との連携強化

本事業には商店街振興組合の方も参加して実施されてきているが、コミュニティ施設来訪者に対する地元商店の働きかけが行われることが期待される。そのためにはポイントカード等により商店街の販促活動と連携させる試みなど、商店自らがコミュニティ形成の一員として積極的に事業に参加することが望まれる。

今後の具体的な事業目標は下記のとおり。

(1) 文化ひろば「く・る・る」

①地元商店街等との連携によるイベント等の強化

- ・元気カード会加入：元気カード所持者に対するポイント活用を可能にする。
- ・手作りショップにて地元農家商店街と連携した地場野菜等の販売実施。
- ・地場産品の食品をテーマに地元商店街との連携によるイベントの開催。
- ・地元商店の出品と地元商店街との連携によるワゴンセール

②貸室利用の拡大

- ・文化団体等との連携強化とともに、自主講座の運営への取組みを進める。

(2) 親子ひろば「とんとん」

①福祉・保健担当等との連携によるイベント等の強化

- ・保健センターや図書館等との共催によるイベントの開催（健康相談・読み聞かせ会）
- ・各親子サークルが主導するイベント等への取組み推進

②会員・利用の拡大

- ・0歳児親子へのPRと近隣市町村在住者への利用PRを推進する。
- ・託児機能需要（短時間のこども預かり）への取組みを進める

【事業の実施ポイント】

訪問する親子は悩みを抱えているケースがほとんどで、スタッフ等との間に信頼関係が構でき、心のうちを見せてくれるようになると、定着した利用者となる。相談事業も行っていることから、適切な職種のスタッフが対応できると良い。

【 関 連 U R L 】

滝川市 <http://www.city.takikawa.hokkaido.jp/index.jsp>

たきかわホール <http://www10.plala.or.jp/tkhall/>